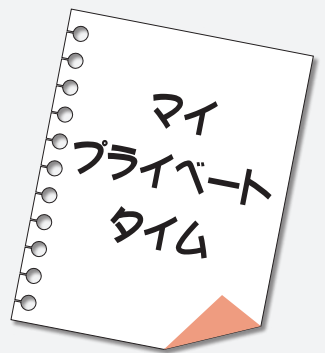


# ウォーキングでまちめぐり

おがわ びん  
おがわ 敏  
おがき 大垣市長(岐阜県)

Bin Ogawa



## 大垣のシンボル

大垣のシンボルと言えば、まず第1に「水」です。大垣は、古くから水の都と呼ばれ、豊富で良質な地下水と15本もの1級河川が流れています。私が小さいころは、生活用水のほとんどを賄うことができたほど、各家庭に自噴する井戸(自噴井)がありました。大垣にいる時はあまり思わないのですが、出張などで大垣を離れてみると、あらためて大垣の水の素晴らしさを感じます。そうした自噴井も、繊維紡績工業が盛んになると、あまり自噴しなくなりましたが、今は電子部品、自動車部品産業の



平成の名水百選(加賀野八幡神社自噴井)

まちとなり、あちらこちらで自噴井が復活しています。

2番目のシンボルは、大垣のランドマーク「大垣城」です。1535年、宮川安定が築城して以来、今年で480年を迎えます。もともと大垣は柿の産地であったため、昔は「大柿」と表記されていましたが、戦国時代に石垣を積み重ねたことから、「大垣」という字を用いるようになりました。現在の大垣城の天守閣は四層からなり、1635年、尼崎藩5万石から大垣藩10万石に移封された戸田氏鉄公の建造によるものです。戦前は国宝だった大垣城も、太平洋戦争の終戦1カ月前に空襲により消失してしまい、昭和34年に市民の浄財により復元されました。

3番目の大垣のシンボルが、俳聖・松尾芭蕉の有名な紀行文「奥の細道」の結びの地であるということです。名作というのは冒頭の文章はよく知られていますが、最後まで読みきった人は案外少ないもので、特に「奥の細道」は、先賢の引用が多く注釈がないとなかなか読みこなせません。3年前に完成した「奥の細道むすびの地記念館」は、「奥の細道」を追体験できる人気のスポットで、最新の解釈の説明や、旅の軌跡を紹介する3D映像コーナーなどもあり、「奥の細道」の愛読者から初めての方まで、多世代にわたり、これまで70万人の方にご来館いただいています。

## 家族で食べ歩き

私の趣味は、旅行、水泳、音楽鑑賞などですが、現在はなかなか時間が取れないのが実情です。そうした中、私にとって貴重な息抜きとなるのが、家族と共に食事を楽しむことです。そして高級な料理ではなく、ラーメン、うどん、焼き鳥、焼肉、パスタなど、庶民的な飲食店を食べ歩いています。炭水化物が好きで、ラーメン、うどん、スパゲティなど評判の良い店のうわさを聞いては出かけていますが、特にラーメンは競争が激しく、各店が趣向を凝らし、スープや麺の味にもこだわりがありますので、



築城480年を迎える「大垣城」



中心市街地の大垣駅通りで一休みをする筆者（手前右から2人目）

新しいラーメン店ができるのと早速舌鼓を打っています。うどんは、おつゆよりも麺に関心があり、よく練られたこしのある麺は最高です。一方、スパゲティは味付けが大切で、私は特に明太子、ほうれん草が入った、クリーム味やガーリック味が好物です。焼き鳥、焼肉は素材そのものの良し悪しが重要ですが、塩やタレといった味付けの変化も楽しめます。私は、菌ごたえのあるものが好きなので、コリコリとした砂肝をよく食べます。焼肉も同様で、塩タン、ミノ、ナンコツなどが好物です。

## 地方都市めぐり

話が食べ物の事ばかりになってしまいましたが、私が最も大切にしていることは、そうした家族との食べ歩きを通して、3人の子どもたちから、話を聞くことです。普段は、立场上、年配の方々と話をする機会が多く、若い人の本音がなかなか聞けませんが、今、若い人が何を考え、どういう行動をするのかなど、いろんな事を教えてくれますし、とても楽しみなひとときです。

市長という職を与えられるまでは、民間企業の一員として、3大都市の本社へ出張したり、旅行で観光地に行くことがよくありました。市長になってからは、全国市長会などで東京出張が数多くありますが、首都東京は、テレビや雑誌などで十分情報が提供されていますし、事情が違い過ぎてあまり勉強になりません。その点、地方都市を訪問した際には、ウォーキングでひとまわり町並みを拝見してみると、非常に参考になります。観光地でない地方都市では、まちづくりの努力や、地域の個性的な文化などに触れて、たびたび感動しています。大垣市が加盟している「全国史跡整備市町村協議会」の総会に出席した際には、全国各都市にこれだけ埋もれた文化遺産があるのかと、想像力を掻き立てられる楽しさを感じています。誇り高い地域文化を維持しながら、新しい時代に向かっていく意気

込みがあります。

また、中心市街地活性化に視点を置いてみると、モーターゼーションが進む中、各都市でまちなか再生に向けてのさまざまな取り組みが行われています。郊外に大型ショッピングセンターが乱立する中、駅前にホテルや飲食店、コンビニエンスストア、特産品店や金融機関など、いろいろなお店などが立ち並ぶ状況を見ると、まちの顔を作ろうと汗をかいている姿がうかがえます。大垣市も、県下第2の16万都市として、歴史文化を活用しながら、中心市街地の顔づくりと新産業の育成に努めていきたいと思っています。



平成24年に開館した「奥の細道むすびの地記念館」